

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	兵庫県立 和田山特別支援学校 職・氏名 教諭 木村 梓	研究チーム名 (個別の指導計画を活かした授業づくり研究チーム)
-----------------	--------------------------------	------------------------------------

研究テーマ分類番号(8)

(1)研究テーマ
個別の指導計画を授業に活かすための学校運営について
(2)研究経過及び具体的な取組
<p>< 4 月 ></p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画作成についての研修会を実施した。 ・グループごとに、1学期の個別の指導計画の作成について検討会を実施した。 <p>課 題</p> <p>肢知併置により校内の指導体制等が大きく変わり、研修会を実施するための時間確保が難しかった。また、新入生についての実態把握に時間がかかるため、この時期の目標設定は厳しいと思われた。</p> <p>< 5 月 ></p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との懇談会を実施した。 <p>成 果</p> <p>前年度までは、この時期に懇談会を実施しておらず、一学期末に行っていた。個別の指導計画を保護者とともに立てていくという方針を徹底するため、この時期に懇談会を入れることとした。結果として保護者(本人)とともに指導計画を考えやすくなった。</p> <p>課 題</p> <p>個別の教育支援計画についても話し合いを持つ必要があったため、1回の懇談会では時間が足りないという声が多かった。</p> <p>< 6 月 ></p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いて授業研究会を実施した。 <p>成 果</p> <p>指導案の中に、必ず各児童生徒の個別の指導計画上の目標を明記することとした。そして、児童生徒の活動の中で、その目標が必ず入るように授業を組み立てていった。その結果、教師間でそれぞれの課題を把握し、主指導の教師と副指導の教師のそれぞれの役割が明確になった。</p> <p>高等部(重度重複グループ)での授業研究会では、「オズの魔法使い」を題材とし、主指導の教師と各生徒とのコミュニケーションについて個別の課題に取り組んだ。生徒は劇の雰囲気を楽しみながら、個々の課題に一生懸命取り組んでいた。教師間で援助の仕方を共通理解した成果である。</p> <p>中学部の授業研究会は、「英語」の授業を実施した。障害種の異なる2名の生徒を対象としており、英語そのものの内容はもとより、コミュニケーションの部分で課題にアプローチしていくような場面設定を行った。お互いのやり取りの中で、コミュニケーションが活発になっていく様子が見られた。</p> <p>課 題</p> <p>集団の授業の中で、個別の指導計画の目標を明確にすることは必要であるが、それ以前に</p>

個別で課題（特に自立活動について）に取り組むことが必要である。その取組が的確に行われてこそ集団の場で、個別の課題の課題で培った力を発揮することができるのではないかと
思われた。

< 7月 >

実施内容

- ・グループごとに1学期の個別の指導計画の評価を行う。
- ・グループごとに2学期の個別の指導計画の作成を行う。
- ・保護者との懇談会を実施し、保護者に1学期の評価を提示し、2学期の指導計画をともに考えた。

成 果

グループ内での指導に関する共通理解を図ることができた。また、保護者への説明責任を果たしやすくなった。

課 題

個別の指導計画と通知表を同じものとしたが、「指導経過」の部分を記入する部分がなく、分かりにくい、伝えきれないなどの意見が出された。

< 8月 >

実施内容

- ・ビデオによる授業の事後研究を実施した。ビデオを視聴した後、外部講師を招いて個別の指導計画をもとに研究協議を行った。

成 果

中学部の「日常生活の指導」の授業で、そうじの指導について実施した。重度の自閉症であるA君を対象とした。自立活動の中で、環境の把握、コミュニケーション、心理的な安定を優先課題として指導案に明記し、キャリア教育の観点も取り入れて展開した。4月当初は教室や集団の場に入れず、教師のはたらきかけも拒否することが多かったA君だが、廊下のモップ掛けを20分間行えるようになった。この映像をもとに、次に展開していく際の視覚的支援等について協議を深めることができた。

課 題

集団参加の難しいA君のような児童生徒は、単独で行動する場面が多いため、個別の指導計画について協議や共通理解をしていくことが難しい。A君に関わる教師が多くなれば協議も深まるが、指導を一貫させるためには教師間の連携が不可欠である。そのような体制を整えていくことが大切である。

< 9月～11月 >

実施内容

- ・個別の指導計画を中心にした授業を実践した。
- ・授業の計画をする際は、グループで検討し、個別の指導計画の目標が活きるようにする。

成 果

中学部8名の「生活単元学習」の授業において、授業や環境の構造化を行い、個々の個別の指導計画上の目標に授業の中でアプローチしていった。それぞれの目標に向かいつつも、全体としては一つのテーマ（カレー作り）を学ぶというまとまりのある授業を展開することができた。

課 題

8名の個別の指導計画をもとに授業を組み立てるにあたって、関わる教員が多くなるため検討する時間を確保することが難しかった。会議の効率化や精選等を行い、授業や児童生徒の指導について検討する時間を確保することが課題である。